

AWS-01

# AWS クラウドマイグレーション成功への道 ～ クラウド移行トータル支援プログラムのご紹介 ～

清水 八重

マイグレーション&モダナイゼーション事業開発本部  
シニアマイグレーションスペシャリスト  
アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社



# 本日本お伝えしたいこと

## 本セッション の概要

- クラウドマイグレーションの成功のポイント
- 脱炭素化社会への貢献
- お客様のクラウドマイグレーションを包括的に支援するプログラム「ITトランスフォーメーションパッケージ2.0」の紹介

## 特に聞いて いただきたい方々

- クラウド導入の検討をこれから行う予定の方
- クラウド導入の検討を始めてまだ日が浅い方
- クラウド移行を始めたものの思ったように進まない方

# クラウドマイグレーションへの牽引役

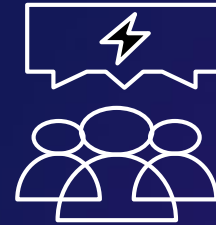


# クラウドマイグレーション成功のポイント

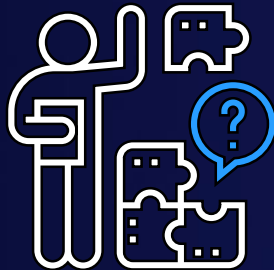
お客様の事例から成功のポイントが明らかに



CxOなどリーダーによるコミットと  
社内外への宣言



トップダウンでの  
計測可能なゴールの設定



移行プロジェクトのリーダーの任命  
クラウドチーム（CCoE）の設立と教育



早く沢山経験を積む  
（検討し過ぎずアジャイルで）

# クラウド移行は脱炭素化社会に向けても大きな効果

企業データセンターからクラウド移行で二酸化炭素（CO2）排出量を**78%削減**の可能性

クラウドデータセンターは平均的な企業や公共機関の**約5倍のエネルギー効率**を達成

出典：451 Research of S&P Global Market Intelligence（2021年7月）



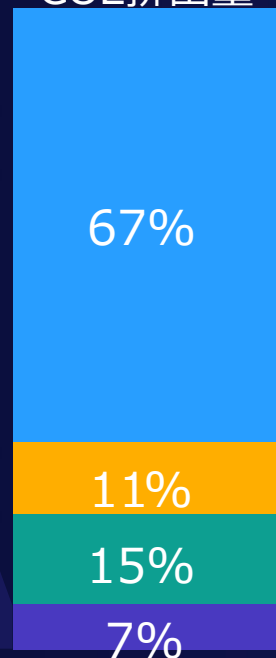
# 環境負荷軽減：半導体から送電網まで効率化

オンプレミス上の  
IT関連業務にかかる  
CO2排出量



78%

クラウド上の  
IT関連業務にかかる  
CO2排出量

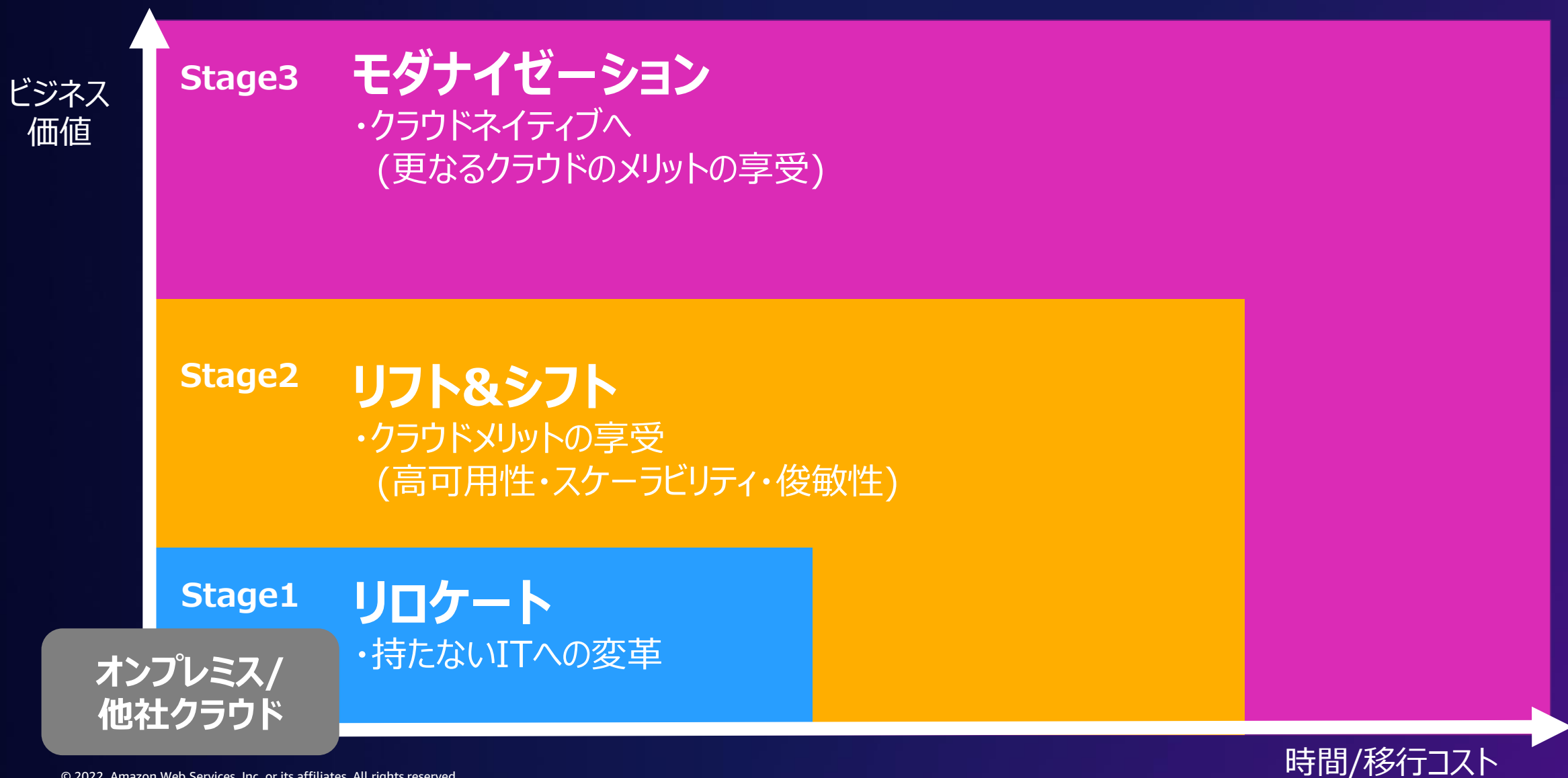


**クラウドサーバーの使用でサーバーのエネルギー効率が5倍以上になり、67%以上のエネルギー削減**

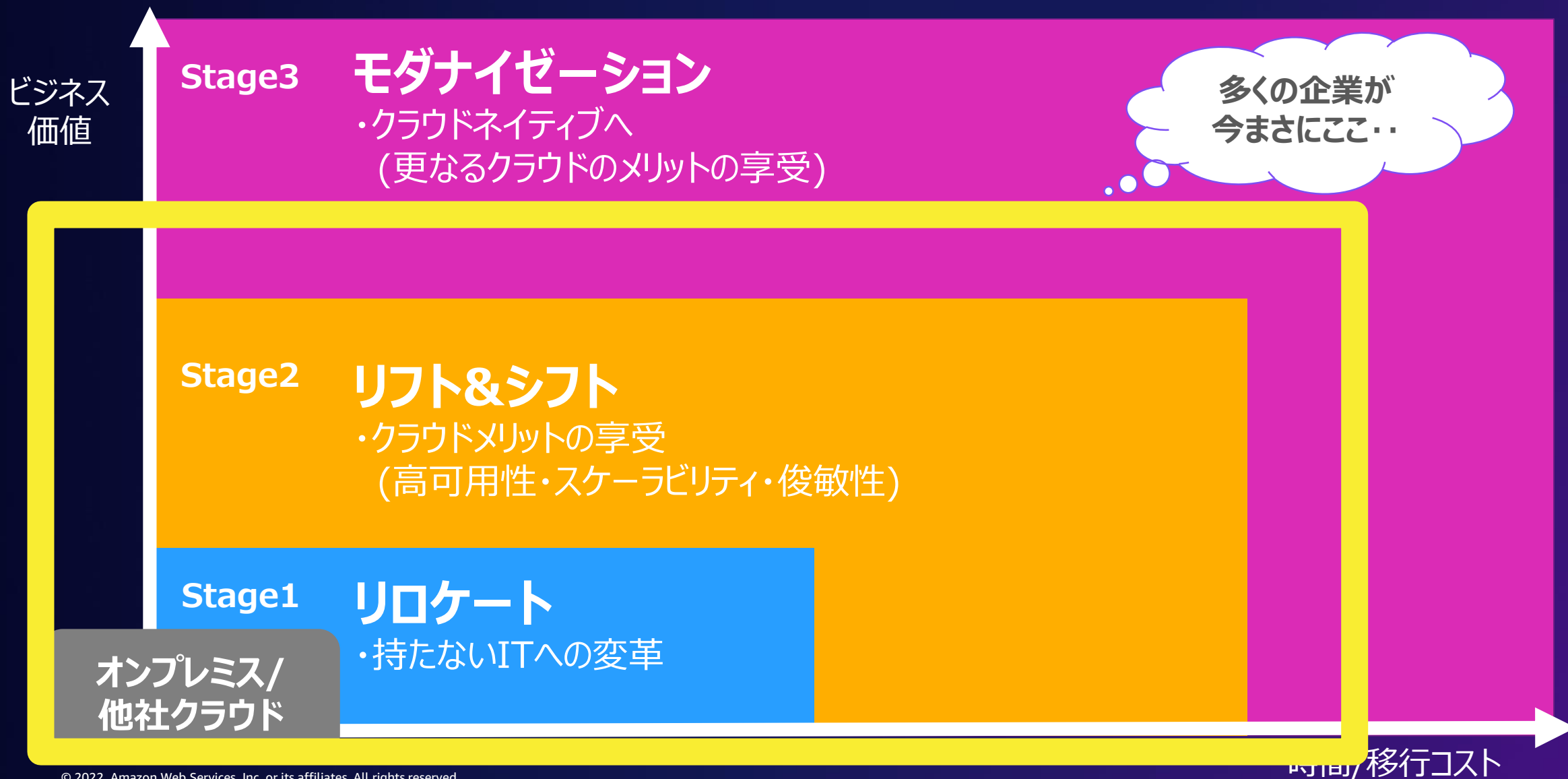
**クラウドデータセンター施設で、より効率的に電力や冷却システムを使用し、さらに11%の削減が可能**

**再生可能エネルギーを調達した場合、CO2排出量をさらに削減可能**

# クラウドマイグレーションの道のり



# クラウドマイグレーションの道のり





# よくある質問

移行プロジェクトはいくらかかるのか？

何から始めたらいいのか？

何から移行させればいいのか？

移行後は何をしたらいいの？

何を残しておくべきなのか？

何をクラウドに移行すべきなのか？

どうやって移行するのか？

どのように人材を育成するのか？

# AWS ITトランスフォーメーションパッケージ2.0

クラウド移行決定

MAP2.0ご締結 (※)



# 評価フェーズのご支援プログラム（無償）

## クラウドエコノミクス（CE）

オンプレミス/他クラウドとAWSのTCO（総保有コスト）  
比較分析

CO2排出削減量試算

Migration Evaluator インフラ資産把握ツール（無償）



インフラ  
コスト  
削減  
(TCO)

**-10～90%**

※ボリュームゾーンは40%前後

AWSクラウドエコノミクス支援企業  
350社以上からの実績



スタッフの  
生産性  
向上

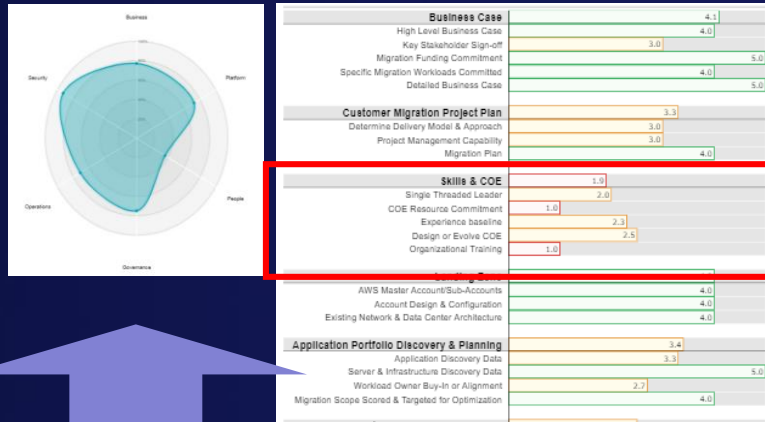
**15～40%**

生産性の向上」試算支援企業  
250社以上からの実績

## マイグレーションレディネスアセスメント (MRA)

お客様の現状評価と推奨アクション提案

“People”の項目で低スコアが目立つ



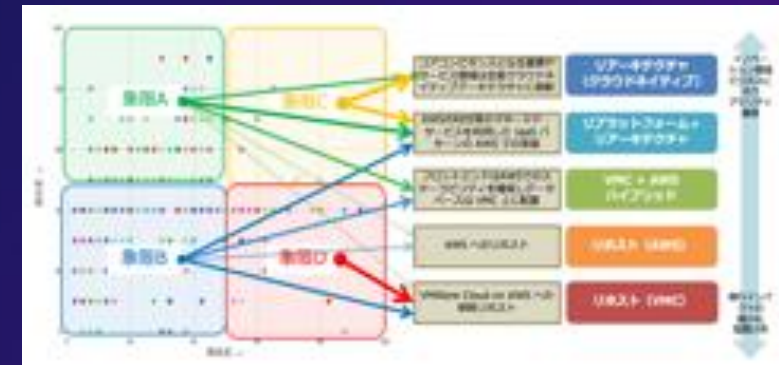
Cloud Adoption Frameworkのフレームワークに沿って、クラウド導入の準備度合いをレーダーチャートで表示

## アプリケーション ポートフォリオ アセスメント(APA)

クラウドへの移行難易度とクラウド適合度から移行パターンをご提示



システム及びサーバーを棚卸し



システム群と移行パターンの対応付け

# 準備フェーズのご支援プログラム

最大の難所で上手くクラウドマイグレーションが進まない理由と  
ITXパッケージ2.0でのご支援内容

社内にクラウド活用の技術  
スキルが無い/習得が進まない  
(システムインテグレーターに丸投げ)

## クラウド推進組織確立

- ・クラウドコアメンバーの育成
- ・エグゼクティブからの支援

新しいものへの不安感で、  
クラウドが利用が進まない

## パイロット移行実施

- ・ノウハウや成功体験を得る
- ・クラウドメリットの浸透

全社的な  
クラウド移行プロジェクトの  
相談役がない

## 移行プロジェクトのサポート

- ・AWSのCSM(※)が移行プロジェクト推進をサポート

※Customer Solutions Managerの略称

# クラウド推進組織: Cloud Center of Excellence (CCoE) とは？

チーム構成例（エンタープライズ企業の場合**5～10名程度**が一般的）

**インフラ部門”だけではなく”  
様々な部門を早めに巻き込むことがポイント**

- ルールやプロセスの**統制**ができている
- 現場の**人材育成**を推進できている
- 現場の**課題解決**に貢献できている
- 現場のナレッジの**情報展開**ができている

→ **現場の良き相談相手として認知される**



# CCoEの立ち上げでやるべきこと

## Tech

### コアメンバー育成のためのAWS(技術)トレーニング

- ・まずは「クラウド目利き」としてSIerやAWSのメンバーとのコミュニケーションが円滑に出来る「AWS認定ソリューションアーキテクトアソシエイト(SAA)」取得を目指す

## Non-Tech

### 組織の立ち上げ

- ・ビジネスKPIと組織KPI設定の関連付け、推進組織のToBe像策定、CCoEの組織Roles & Responsibility定義、活動計画とロードマップの作成などなど
- ・AWSプロフェッショナルサービス(有償)に該当のご支援メニューあり

# ITXパッケージ2.0に含まれる支援内容

## AWSトレーニングバウチャー(利用券)のご提供

- CCoEの中心メンバー/クラウド目利きであるITスタッフを育成
- AWS認定ソリューションアーキテクトアソシエイト × 3名分相当

## AWS プロフェッショナルサービス利用サポートのご提供

- 評価フェーズで実施の「マイグレーションレディネスアセスメント(MRA)」の要改善項目を解決可能
- AWS プロフェッショナルサービスのご支援メニューの費用を一部サポート(\*)
- 「CCoE立ち上げ」だけでなく、お客様の状況に合わせた別メニューにもご利用可能

\* AWSサポート分と同等以上の有償プロフェッショナルサービスご利用が前提条件、サポート上限額あり





# パイロット移行実施サポート(EBA)

## パイロット移行の対象となるプロジェクトの選定

- プロジェクト(システム)の選定と移行方式の決定
  - クラウド適合性の高い1～3システムを選定



## 体験型ワークショップ Experience-Based Acceleration(EBA) で移行実施

- AWSのCSMやコンサル、ソリューションアーキテクトが移行をサポート
- 本格移行時にも役立つ「ノウハウ」と「成功体験」を得られる
  - 移行経験を得てSIerとのコミュニケーションも円滑に



# EBA People Party

お客様の状況に合わせたCCoEのあるべき姿の定義をサポート

## 実施方法

- 2日間のワークショップ形式
- 組織変革の意思決定者の出席  
(CIO, CTO, IT部門のリーダーなど)

## ゴール

参加者の意識を合わせ、初期のチーム編成の方向性を合意する

クラウド適用に関する現場の良き相談相手から、自ら実践する先鋭的な少人数のチーム構成まで、最適な推進組織を定める

## CCoEがリードする領域 (代表的な項目)



クラウド/ソフトウェア・ファースト



CI/CDなど自動化をリード



疎結合アーキテクチャ推進



プロダクトマネジメント推進



少人数のチームでDevOpsを推進



アジャイルカルチャーの定着

# 移行プロジェクトの規模に応じた支援

## 人材育成支援

従来のITXパッケージは3名までのAWS  
トレーニングご提供



大規模プロジェクトでは3名では足りない



プロジェクト規模に応じて3名以上のAWS  
トレーニングご提供

## CSMによるCCoE支援

CSMによるPM支援



もっと深くプロジェクトを支援して欲しい



CCoE の相談役としてプロジェクト推進を  
支援

# 移行フェーズとそれ以降のご支援プログラム

## クラウド移行開始

### 特別 インセンティブ

#### ファイナンスインセンティブ “MAP2.0クレジット”

- ・移行により発生したAWS利用増に対し、3年間一定割合のAWSクレジット(ご利用に充当できるクレジット)を提供

### IT Divest

#### クラウド移行に伴い不要になるハードウェアの買取を仲介

- ・安全かつ環境に配慮した方法で再利用または廃棄

## モダナイゼーション

### CO2排出量モニタリング、 分析、将来予測

#### AWS Customer Carbon Footprint Tool

- ・お客様のAWS利用実績によるCO2排出量のモニタリング、分析、将来予測を提供

### モダナイゼーション (EBA)

#### 体験型ワークショップで、モダナイゼーション移行経験

- ・既存アプリケーションをアセスメントして、実際にモダナイゼーション移行を体験

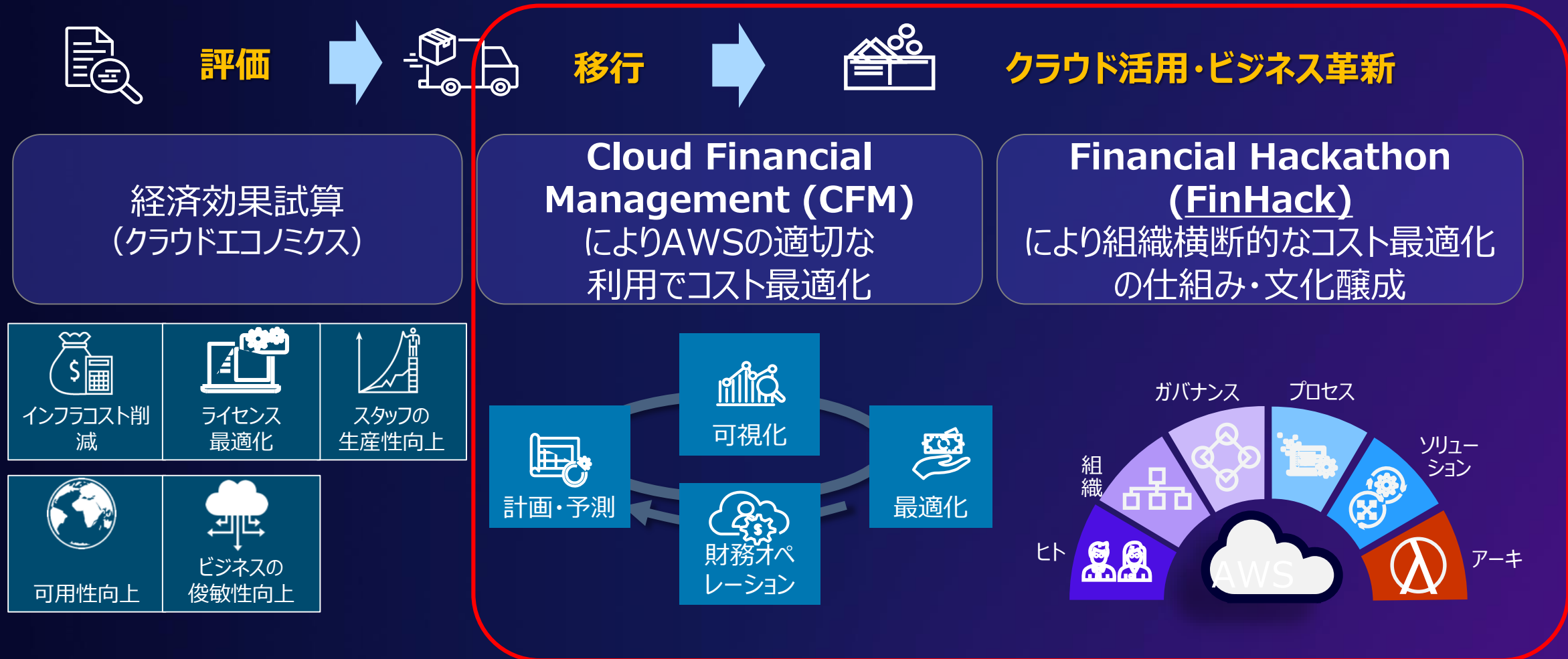
### 継続的コスト削減

#### Cloud Financial Management(CFM)でコスト最適化

- ・移行完了後もAWSサービスの適切な利用でコスト最適化

# Cloud Financial Management(CFM)

AWS Cost Explorerでデータを収集/分析し、コスト削減を提案  
お客様がその案を実行した後、コスト削減の推移を報告、以後のアクションの計画を立てる



# 株式会社NTTドコモ

## Cloud Financial Management (CFM)プログラムの活用で、より一層のコスト最適化を図り12%削減を実現

### ビジネス要件

- 既存のAWSコストをSavings Plansの購入などにより既に40%削減済であったが、目標値に向けてはさらなるコスト削減が必要であった
- コスト削減を継続的に実施するためにAWSのコスト管理の知見をメンバーに浸透させることが必要であった

### ソリューション

- CFMプログラムによる支援を通して、Savings Plansにとどまらない、スポットの適用、インスタンスの最新世代への切り替え、EBSボリュームの削減を実施
- FinHackワークショップを通して、AWSコスト最適化手法・ベストプラクティスを把握し、様々なチームへ横展開することができ、メンバーの知識レベルを高めた

### 効果と今後の展開

- 12%のさらなるコスト削減を実現**
- 費用可視化とガバナンスを強化するためのタグを実装
- 今後、最新世代のインスタンスへ移行予定

AWSを利用しているチームはたくさんありますが、コスト最適化のためのスキルレベルが様々であるためコスト最適化の取組が各々異なっています。CFMフレームワークを学びコスト最適化の取組を標準化することで、当初計画していた予算よりも費用を節約することができます。これにより新たな予算を取得せずに新しい投資ができます。これは非常に重要なことです。

株式会社NTTドコモ サービスデザイン部 第三クラウド推進 担当部長 三井力氏

NTTドコモで保有している大規模コンシューマシステムにおいて、サービスレベルとランニングコストのバランスは非常に重要な問題となります。CFMの支援により、サービスレベルを維持したまま大幅なコスト削減に成功しました。アーキテクチャのモダナイゼーション、新たなManaged Servicesの導入など、今後もサービスの成長にご支援いただければと思います。

株式会社NTTドコモ サービスデザイン部 第一クラウド推進 担当課長 壺井雅史氏

© 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.



## 株式会社NTTドコモ

業種: 通信事業、スマートライフ事業、その他事業  
従業員数: 単体 8,100名  
ドコモグループ 27,558名  
(2020年3月31日現在)

日本最大の移動体通信事業者であり、LTEや5Gなどの先進的なワイヤレスネットワークを通じて、7,300万人以上の利用者にモバイルテクノロジーを提供しています。

携帯電話会社と連携することで、スマートモバイルテクノロジーを開発しています。

<https://www.nttdocomo.co.jp/>

### ご利用中の主なAWSサービス

Amazon EC2	AWS Lambda
Amazon RDS	Amazon Dynamo DB
Amazon EBS	AWS Fargate
Amazon S3	Amazon ECS/EKS
Amazon Kinesis	



# まとめ

- クラウドマイグレーションはDXを推進させる 1 つの取り組み
- 準備フェーズは最大の難所、しっかりとした準備が必要
- Cloud Center of Excellence (CCoE) 設立、ITスタッフ育成、移行計画の策定などやるべきことは多数
- ITXパッケージ2.0を活用して、脱炭素化に貢献しつつ、コストを下げながらマイグレーションを加速可能
- クラウドマイグレーションで終わりでなく、その先、CFMによる更なるコスト削減、EBAによるモダナイゼーション移行の体験を通して、クラウドネイティブ化への準備も視野に

ITトランスフォーメーションパッケージ2.0にご興味を持たれたら、  
AWS担当営業までぜひお気軽にお問合せください。

# Thank you!

